

症例基盤・問題解決型学修（実践）

責任者・コーディネーター		地域医療学分野 伊藤 智範 教授		
担当講座・学科（分野）		地域医療学分野、医学教育学分野、腫瘍生物学研究部門、総合診療医学分野、全学教育推進機構、看護学部看護専門基礎講座、脳神経外科学講座、消化器内科消化管分野、呼・アレ・膠原病内科分野		
担当教員		伊藤 智範 教授、田島 克巳 教授、前沢 千早 教授、下沖 収 教授、佐藤 洋一 機構長、遠藤 龍人 教授、吉田 研二 特任准教授、梁井 俊一 講師、相澤 純 特任講師、秋山 真親 助教		
対象学年	2	区分・時間数	講義	2コマ 3.0時間
期間	通期		演習	0コマ 0.0時間
			実習	16コマ 24.0時間

・学習方針（講義概要等）

代表的疾患を理解できるようになるために、病態生理を基礎医学から結び付けられるように、学習する。基礎医学に立脚して疾病を理解できるように、疾患の症状を病態生理や解剖学と結び付けて、確認をしながら演習を行う。

公開症例集（Paper Patients）などをもとにした問題解決型学習（PBL; Problem based learning）をおこなう。一般的な症候を訴える患者に対して、どのようなアプローチで疾患の診断と治療を行えば良いか、またそれを論理的に進める際に必要な基礎的知識と技能が何かを、少人数グループ（履修背景をもとにしたメンバー構成）で調べて、プレゼンテーション資料をつくり、発表と討議を行うコースである。

・教育成果（アウトカム）

低学年から症例・症候ベースで患者情報を理解することで、基礎医学と臨床医学のつながりと病態生理を理解できるようになる。症例をベースにした少人数グループ作業によるPBLをおこなうことで、常に病者を念頭において、ヒトの体の正常構造と機能、および病態生理を学ぶことができるようになる。また、チームとして作業をする上で必要な、役割分担とコミュニケーション能力が向上する。自己の学修履歴を記録しておき、常に振り返る習慣を身につけることで、自己学修を自律的に行う事ができる。

（ディプロマ・ポリシー： 1,2,4,5 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	症候から考えられる多様な疾患を、具体例をあげて説明し、鑑別する思考ができる。
2	疾患に関する症候とその病態生理を述べることができる。
3	診断のプロセスを述べるができる。
4	チームの和を保ち、良好なコミュニケーションをとることができる。
5	少人数グループ内で、役割を決めて成果物を作り上げることができる。
6	修得したプレゼンテーションスキルをもとに、適切な発表ができる。
7	自己学修の記録（ポートフォリオ）をつけることができる。
8	与えられた臨床データ（検体検査、生理検査、特殊検査）を解釈し診断に至ることができる。

・講義場所

講義：東1-B講義室 実習：東1-B講義室、4-A・B実習室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	4/27(月)	1	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	イントロダクション【講義室】 ・ 症候学についての講義をうける。 ・ 本コースにおける1Mと2Mの違いについて理解する。	1,7
講義	4/27(月)	2	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	プレゼンテーションの基礎と応用【講義室】 プレゼンテーションの基礎から応用までについて、「最低限押さえておくべき内容」「お約束（業界の常識）」「更に知っておくと良いtips」を実例や実習を交えて学修する。	1,5,6
実習	5/25(月)	1	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 総合診療医学分野 全学教育推進機構	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 下沖 収 教授 佐藤 洋一 機構長	グループ成果物の発表1【3会場】 ・ (24班、各5~6名) ・ 初回に提示した症候について、3会場にわかれてプレゼンと質疑応答をおこなう。	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	5/25(月)	2	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 総合診療医学分野 全学教育推進機構	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 下沖 収 教授 佐藤 洋一 機構長	・ 同上、確認テスト	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	6/8(月)	1	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 総合診療医学分野 看護学部看護専門基礎講座 医学教育学分野 全学教育推進機構	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 相澤 純 特任講師 下沖 収 教授 遠藤 龍人 教授 田島 克巳 教授 佐藤 洋一 機構長	グループ成果物の発表2【3会場】 ・ (24班、各5~6名) ・ 初回に提示した症候について、3会場にわかれてプレゼンと質疑応答をおこなう。	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	6/8(月)	2	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 総合診療医学分野 看護学部看護専門基礎講座 医学教育学分野 全学教育推進機構	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 相澤 純 特任講師 下沖 収 教授 遠藤 龍人 教授 田島 克巳 教授 佐藤 洋一 機構長	・ 同上、確認テスト	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	6/22(月)	1	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 総合診療医学分野 看護学部看護専門基礎講座 医学教育学分野 全学教育推進機構	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 相澤 純 特任講師 下沖 収 教授 遠藤 龍人 教授 田島 克巳 教授 佐藤 洋一 機構長	共有化発表会【実習室】 ・ 前期で取り上げた症例の共有化発表を行う。	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	6/22(月)	2	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 総合診療医学分野 看護学部看護専門基礎講座 医学教育学分野 全学教育推進機構	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 相澤 純 特任講師 下沖 収 教授 遠藤 龍人 教授 田島 克巳 教授 佐藤 洋一 機構長	解説講義【実習室】 ・ 前期で取り上げた症例について解説講義を行う。	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	10/26(月)	1	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 総合診療医学分野 全学教育推進機構	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 田島 克巳 教授 相澤 純 特任講師 下沖 収 教授 佐藤 洋一 機構長	グループ成果物の発表3【3会場】 ・ (24班、各5~6名) ・ 初回に提示した症候について、3会場にわかれてプレゼンと質疑応答をおこなう。	1,2,3,4,5,6,7,8

実習	10/26(月)	2	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 医学教育学分野 総合診療医学分野 全学教育推進機構	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 田島 克巳 教授 相澤 純 特任講師 下沖 収 教授 佐藤 洋一 機構長	・ 同上、確認テスト	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	11/16(月)	1	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 総合診療医学分野 脳神経外科学講座 全学教育推進機構	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 相澤 純 特任講師 下沖 収 教授 吉田 研二 特任准教授 佐藤 洋一 機構長	グループ成果物の発表4【3会場】 ・ (24班、各5~6名) ・ 初回に提示した症候について、3会場にわかれてプレゼンと質疑応答をおこなう。	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	11/16(月)	2	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 総合診療医学分野 脳神経外科学講座 全学教育推進機構	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 相澤 純 特任講師 下沖 収 教授 吉田 研二 特任准教授 佐藤 洋一 機構長	・ 同上、確認テスト	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	11/27(金)	3	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 総合診療医学分野 消化器内科消化管分野 全学教育推進機構	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 相澤 純 特任講師 下沖 収 教授 梁井 俊一 講師 佐藤 洋一 機構長	グループ成果物の発表5【3会場】 ・ (24班、各5~6名) ・ 初回に提示した症候について、3会場にわかれてプレゼンと質疑応答をおこなう。	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	11/27(金)	4	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 総合診療医学分野 消化器内科消化管分野 全学教育推進機構	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 相澤 純 特任講師 下沖 収 教授 梁井 俊一 講師 佐藤 洋一 機構長	・ 同上、確認テスト	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	12/11(金)	1	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 医学教育学分野 総合診療医学分野 呼・アレ・膠原病内科分野 全学教育推進機構	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 田島 克巳 教授 相澤 純 特任講師 下沖 収 教授 秋山 真親 助教 佐藤 洋一 機構長	グループ成果物の発表6【3会場】 ・ (24班、各5~6名) ・ 初回に提示した症候について、3会場にわかれてプレゼンと質疑応答をおこなう。	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	12/11(金)	2	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 医学教育学分野 総合診療医学分野 呼・アレ・膠原病内科分野 全学教育推進機構	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 田島 克巳 教授 相澤 純 特任講師 下沖 収 教授 秋山 真親 助教 佐藤 洋一 機構長	・ 同上、確認テスト	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	12/18(金)	1	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 医学教育学分野 総合診療医学分野 全学教育推進機構	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 田島 克巳 教授 相澤 純 特任講師 下沖 収 教授 佐藤 洋一 機構長	共有化発表会【実習室】 ・ 後期で取り上げた症例の共有化発表を行う。	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	12/18(金)	2	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 医学教育学分野 総合診療医学分野 脳神経外科学講座 消化器内科消化管分野 呼・アレ・膠原病内科分野 全学教育推進機構	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 田島 克巳 教授 相澤 純 特任講師 下沖 収 教授 吉田 研二 特任准教授 梁井 俊一 講師 秋山 真親 助教 佐藤 洋一 機構長	解説講義【実習室】 ・ 後期で取り上げた症例について解説講義を行う。	1,2,3,4,5,6,7,8

・ 教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	岩手医科大学基本症例集（オープン問題）			

教科書	内科診断学 第3版	福井 次矢、奈良 信雄 編集	医学書院	2016
参考書	内科学書 改訂第8版	小川 聡 総編集	中山書店	2013
参考書	Andreoli and Carpenter's Cecil essentials of medicine 9th ed.	Ivor J. Benjamin ほか	Saunders	2016
参考サイト	https://tsutawarudesign.com			
参考書	プレゼンテーションzen	ガー・レイノルズ 著	丸善出版	2009
参考書	あなたのプレゼン誰も聞いてませんよ！	渡部欣忍 著	南江堂	2014
参考書	技術1割のプレゼン	阿部泰之 著	中外医学社	2018

・成績評価方法

<p>【形成的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム成果物発表後に確認テスト（IRAT, GRAT）を実施する。（認知領域：形成的評価） ・確認テスト回答シートは毎回回収し、出席確認として扱う。（情意領域：形成的評価） <p>【総括評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成したスライドを含めたポートフォリオ等の提出物（認知・精神運動・情意領域）2割 ・客観試験（認知領域）8割 ・成果物発表会での態度（質疑応答等）を別途評価し加味する。（認知・精神運動・情意領域） ・救急センター当直体験研修レポートの内容 <p>として総合的に評価し、60点以上を合格点とする。</p>

・特記事項・その他

<p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低60分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。</p>
--

・教育資源

<p>岩手医科大学オープン問題症例集・内科診断学・講義室・図書館・PC・スマートフォン・インターネット環境</p>

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン Spectre x360 13-ap0000	1	講義時に使用
講義	ノートパソコン MacBook Air 13インチ	1	講義時に使用